

第12回日本老年社会学会総会

第12回日本老年社会学会総会は、昭和45年11月7、8日、福岡女学院短期大学との共催の下に、福岡市において開催された。特別講演として、「老年開発の方向」(渡辺 定)、「年金についての若干の考察」(菱沼従尹)の2題があり、シンポジウムとして「老年者の経済生活」があり(司会 村井隆重)。

人口老年化の転換期的構造	黒田俊夫
老年者の家族扶養	老川 寛
老年者の就労をめぐる諸問題	三浦文夫
老年者の年金制度	村上 清

の報告をめぐって討議が行なわれた。

このほか、23題の一般研究発表が行なわれたが、そのうち、人口に直接関係のあるものは次のとおりである。

老年人口の推移についての死亡原因からの考察	佐藤良也
老年化の重層構造	黒田俊夫
中高年労働力の地域的特徴	上田正夫 (上田正夫記)

第2回国際家族計画連盟西太平洋地域会議

標記の会議 (Second IPPF Western Pacific Regional Conference) が1970年10月13日から16日までの4日間にわたり、国際家族計画連盟西太平洋地域事務局、社団法人日本家族計画連盟ならびに財団法人家族計画国際協力財団の共同主催により、経団連会館国際会議場(千代田区大手町)において開催された。

本会議は「1970年代の人口」を主題とし、「家族計画と社会変動」を副題としたきわめて野心的であり、かつ時宜をえたテーマを中心とした点に特徴がみられた。単に、家族計画の狭い範囲にとらわれず、家族計画の基盤としての社会経済と人口の変化を重視した人口会議であった。第2の特徴は、西太平洋地域の加盟国のみを対象としないで広くアジア地域を取り上げ、しかも参加者、報告者はアジア以外に広く世界各地に及んでおり、文字どおりの国際会議であった。国内の参加者は259名、外国から185名、合計444名の参加者に達したことからみても、本会議の規模を推察することができよう。また、国外からの参加者には ECAFE, FAO, WHO などの国連系統機関や OECD (経済開発協力機構) のような国際機関からの代表者が含まれている。

セッションは、基本的に2種類に区分することができる。第1は論文発表の総会であり、第2は、パネル・ディスカッションのセッションである。前者は13の論題に分かれ、それぞれあらかじめペーパーが提出されており、原則としてこのペーパー提出者がプレゼンテーションを行なった。その論題およびスピーカーは次のとおりである。

第1は、「1970年代におけるアジアの人口」という課題であって、ECAFE の人口部長 Carl Frisen が報告を行なった。

第2は、「1970年代におけるアジア諸国の食糧資源」という課題で、FAO の地域栄養担当官の Milton McRoberts によって報告された。

第3は、「国際連合の人口基金の事業と活動」についての報告が、人口基金の事務局長 Rafael Salas によってなされた。

第4は、「1970年代におけるアジア諸国の労働力人口」であって、プリンストン大学人口研究所の Irene